

解答・解説

凡例および注意点

① = 大問番号 1 = 段落番号 ❶ = 文番号

解答部

_____ = 正解部分
() = 省略可能
/・[] = 直前の語句との入れ換え可能

解説部

主 = 主語 動 = 動詞 目 = 目的語 副 = 副詞 など
「 」 = 訳（基本は常体の直訳）、あるいは強調
() = 省略可能、あるいは補足・別表現
【語句】 = 該当箇所の重要語句
[|] = 発音。左側が発音記号。右側が目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント
⇒ = 派生語・反意語 など
[暗例] = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする
【文法】 = 該当箇所の重要文法事項

日本語訳部

自然な日本語であることを最優先し、英文の要素の漏れがないよう心がけた

重要語句確認部

名 = 名詞 動 = 動詞 形 = 形容詞 副 = 副詞 など
□ = チェック欄
[] = 発音記号
「 」 = 意味

解答

1

- 問 1 ネオはもちろん赤い錠剤を飲み、自分が現実と考えていたものが実は、人間を支配しようとするエイリアンによって作られた偽物だったことに気づく。
- 問 2 進歩した文明が偽物の世界を創造する可能性を調査することについての論文。(35字)
- 問 3 (C)
- 問 4 (B)
- 問 5 (C)、(E)
- 問 6 (A)

解説

凡例： ❶ = 段落番号、❷ = 文番号

- 問 1 日本語訳の記述問題。「訳」は自然な日本語であることが何よりも大切。ただ、意識しすぎても減点される可能性がある。英文が含む要素が過不足なく和訳に反映されているか、吟味・推敲しよう。また、字があまりきれいでなくても、採点者の身になって、丁寧に書くようを心がけること。
下線部(1)の文構造は、**主** Neo, **副** of course, **動** takes **目** the red pill **接** and **動** discovers **目** [that **主** {what he thought was real life} **動** was **副** in fact **補・名** {a simulation designed by aliens **副** to control humans}]. の形。下線がピリオドに及んでいないが、意図が不明で、出題ミスと考えるべきだろう。句点(。)も含めて訳すほうがよい。等位接続詞 and の前の部分は単純な SVO の構造で、とくに問題はないだろう。注意すべきなのは動詞 discovers の目的語となる that 節で、that 以降文末までが 1 つの名詞の意味のまとまり(名詞節)になっている。that 節中について、主語 what he thought was real life 「彼が本物の人生と考えたもの」は、he thought がつながった連鎖関係代名詞 what が導く名詞節。動詞は be 動詞 was。補語はその中心となる名詞 a simulation を過去分詞の形容詞用法 designed 以降が後置修飾している形。単純化すれば、この that 節は SVC (第 2 文型) で、主語と補語それぞれの名詞の形が理解できるかどうかのポイントになる(文構造の詳細は『全文構造解説』を参照)。simulation は適した訳が難しいが、日本語(カタカナ語)の「シミュレーション(模擬演習)」では意味が合わない。「擬似的な世界」、「偽りの世界」などの意味を含むことばをなんとか探し出したい。
- 問 2 文章中の内容を具体的に説明する記述問題。40 字以内、簡潔に、などの条件を満たしてまとめる。なお、字数制限があるときには、その 9 割以内を目安に解答することを心がける。例えば

- 条件が「100 字以内」ならば、90 ～ 100 字を目安にするということ。ただ、このように 40 字程度ならば、36 字に多少足りなくても問題はないだろう。少なくとも論理的には許される。
- Nick Bostrom が 2003 年に発表した論文について説明する部分は、**❷❷** ～ **❸** Probably the most influential academic article on this subject was published by Nick Bostrom in 2003 in *The Philosophical Quarterly*. Bostrom, an Oxford University professor, begins by examining how likely it is that an advanced civilization would create a simulation. 「おそらくこのテーマに関してもっとも影響力のある学術の記事は、2003 年に『フィロソフィカル・クォーターリー』においてニック・ボストロムによって発表された。ボストロムは、オックスフォード大学の教授だが、進歩した文明が偽物の世界を作り出すことがどの程度ありえるのかを調べることから始める。」の **❸** の部分。**❹** 以降はその具体的な内容(3 つの選択肢)が述べられるが、字数制限から説明に含めることはできない。Bostrom begins by examining ～ 「ボストロムは～を調べることから始める」とあるが、**❹** 以降が 3 つの選択肢の具体的な説明なので、この～の部分は該当部分の内容を端的に表していると判断する。よって、**❸** の部分を簡潔にまとめる。
- 問 3 空所補充の選択問題。前後の文脈が自然に通ることが最大の正解根拠となる。具体的には、選択肢を実際に代入して確認していくことになるだろう。
空欄はほぼ段落冒頭で、まずそれ以降の部分を確認すると、**❹❶** ～ **❸** If (ア), then it is logically impossible for us to be living in a simulation. However, if the third choice turns out to be correct, then it becomes quite (a). The reason for this

is that if advanced civilizations exist and have built at least one simulation, it is likely they have built many. 「もし(ア)ならば、私たちが偽物の世界に生きていることは論理的にありえない。しかし、第三の選択肢が正しいということになれば、それはかなり(a)ということになる。この理由は、進歩した文明が存在し、少なくとも 1 つの偽物の世界をつくっているとすれば、その文明が多く偽物の世界をつくっていることもありえるからである。」という内容。問 4 の問題部分も関係し、「3 つの選択肢」を確認する必要もある。「3 つの選択肢」は **❷❹** 以降段落末の、He examines three possibilities that we can choose: the first being that any advanced civilization would become extinct before they developed the necessary technology to create complex simulations. The second choice is that very advanced civilizations do exist and have the required level of technological capability but choose not to build simulations for ethical or practical reasons. The third choice is that they both exist and have the necessary ability and motivation. 「彼は選択可能な 3 つの可能性を調べる。つまり、文明が技術を開発して複合的な偽物の世界を作り出す前に、あらゆる文明は滅びるだろうというものが第一の選択肢。第二の選択肢は、非常に進歩した文明は確かに存在し、必要とされる技術的能力のレベルに達してはいるが、倫理的あるいは実用的な理由で偽物の世界を作らないことを選ぶもの。第三の選択肢は、進歩した文明と技術レベルがあり、必要な能力も動機もあるというものである。」という内容。問 4 の空所(a)には likely 「ありそうな」か unlikely 「ありそうもない」のいずれかが入るが、第三の選択肢「進歩した文明と技術レベルがあり、必要な能力も動機もある」という条件下で、**❹❸** に示された理由「少なくとも 1 つの偽物の世界を作ったとすれば、多くの偽物の世界を作っていることはありえる」から、(a)には likely が入るとわかる。ここで着目するのは However 「しかし」で、**❹❶** と **❷** が逆接になっていることがわかる。**❷** 「第三の選択肢では、偽物の世界はかなりありえる」に逆接するのは **❶** 「第一、第二の選択肢では、偽物の世界は論理的にありえない」という文脈となるのが自然である。よって、正解は(C) (If) the first or second choice is correct 「(もし) 第一と第二の選択肢が正しい(ならば)」となる。(D) (If) neither the first nor second choice is correct 「(もし) 第一と第二の選択肢が正しくない(ならば)」は、第一、二と、第三とを対比することにはなるが、条件が肯定と否定で異なるので However では逆接できない。(A) (If) Bostrom's idea is true 「(もし) ボストロムの考え方が真(ならば)」、(B) (If) all the choices are possible 「(もし) すべての選択肢がありえる(ならば)」、(E) (If) none of the choices are correct 「(もし) 選択肢がどれも正しくない(ならば)」はどれも、the third choice との対比が成立しないので、文脈が通らない。【語句】neither [ˈniːðər/niːðər | ナイダ/ニーダ] A nor B 「A も B も～ない」⇒ either A or B 「A か B のどちらか」、none [nʌn | ナン] **代** 「1 つも～ない」

- 問 4 空所補充の選択問題。各空欄は二択の対義語なので、文脈と論理、対比を意識しながら解答する。
空欄(a)については、問 3 で解説したので省略する(正解は likely)。
空欄(b)と(c)を含む部分は **❷❶** ～ **❸** There are also some arguments against the first two choices. The massive size of the universe and the huge number of planets that have the potential for life make the first possibility fairly (b). It is unfortunately quite (c) that civilizations (ours included) will destroy themselves or be destroyed, but it is also reasonable to imagine that at least a handful of civilizations somewhere in the universe have survived long enough to develop advanced technologies. 「最初の 2 つの選択肢に対抗する議論もある。宇宙の広大な大きさと、生命の可能性を持つ惑星の膨大な数によって、第一の選択肢の可能性はかなり(b)ものとなる。文明が(私たちのものも含めて)自らを破壊、あるいは破壊されることは残念ながらかなり(c)が、少なくとも宇宙のどこかにある一握りの文明が十分に生き長らえ、進歩した技術を発展させるのを想像することもまた合理的である。」という文脈。まず(b)について、第一の選択肢「文明が技術を開発して複合的な偽物の世界を作り出す前に、あらゆる文明は滅びるだろう」に対抗するものとして、「宇宙の広大な大きさと、生命の可能性を持つ惑星の膨大な数によって、第一の選択肢の(すべての文明が滅びる)可能性はかなり」]「ありえない」とするのが論理的に正しいと判断できる。つまり「広大な宇宙に地球のような生命を持つ惑星が(数多く)ある可能性があるのだから、そのすべてが滅びる可能性はかなりありえない」ということ。よって(b)には unlikely が入る。次に(c)について、「私たちの文明も含め、文明が自らを破壊、あるいは破壊されることは残念ながらかなり」]「ありえる」とするのが自然。副詞 unfortunately 「残念ながら」が文脈のヒントになる。よって(c)には likely が入る。
以上から、空欄は順に likely—unlikely—likely となり、正解は(B)。
- 問 5 本文内容との一致・不一致を選ぶ選択問題。この形式の問題においては、まず、内容が一致すれば **○**、一致しなければ **✕** をそれぞれの選択肢の終わりにチェックしていき、最後に問題文の指示に合わせて解答するよう習慣づけるとよい。こうすることで、一致しないものを解答するときに混乱することがなくなる。
(A) If Neo had chosen the blue pill, he would even have forgotten that he met Morpheus. 「ネオが青い錠剤を選んではいれば、彼はモルフェウスに会ったことすら忘れていただろう。」 **○** **❶❸** ～ **❹** He eventually meets a mysterious stranger called Morpheus who offers him one of two pills. He explains that the blue pill will cause him to fall asleep and wake up in his bed with no memory of the meeting. 「結果的に彼(ネオ)はモルフェウスという名の謎めいた見知らぬ人に会うが、モルフェウスは彼に 2 つの錠剤のうちの 1 つを勧める。彼が説明するには、青い錠剤を飲むと眠ってしまい、ベッドで目覚めると会った記憶を失っている。」に一致。